

日本モンゴル学会春期大会

春暖の候、会員の皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。さて、恒例のモンゴル学会を下記の要領で開催いたします。春の大会では総会があり、今年は新会長の選出にあたります。また、今年度より、駐日モンゴル国特命全権大使による「大使賞」が設定されました。もちろん、発表内容も一層充実させて開催いたします。奮ってご参加ください。

—記—

日時：2024年5月18日（土）10時30分から17時まで

場所：千葉大学西千葉キャンパス、法政経学部棟1階106講義室

https://www.chiba-u.ac.jp/files/pdf/campusmap_nishichiba2024.pdf

（上記地図、L1 入って奥になります）

共催：千葉大学大学院人文科学研究院

内容

総合司会 児玉香菜子（千葉大学）

開会の辞（会長）（10:30-10:35）

第1部 基調講演（10:35-11:10）

座長：松川 節（大谷大学）

トルゴルジャヴ（モンゴル国立ガバナンス・アカデミー大学）

「モンゴル人の政治的価値観、国家の伝統と国家性に関する理解」

第2部 研究発表

座長：萩原 守（摂南大学）

発表1 中井健太（大阪大学・大学院生）

（11:10-11:35）

「G. E. グルム・グルジマイロのモンゴル研究—チンギス・ハーン金髪人種説と Hu=Mongol 説」

発表2 アリョーナ（ジミンゴア）（ノタックモンゴル語教室）

（11:35-12:00）

「シネヘン・ブリヤートと寺院の歴史—ブリヤート僧のライフヒストリーを通じて」

〔昼食休憩 60分〕（12:00-13:00）

総会（13:00-13:15）

新会長挨拶（13:15-13:20）

駐日モンゴル国特命全権大使「大使賞」授賞式（13:20-13:30）

第3部 国際共同研究セッション（13:30-15:00）

司会・趣旨説明：尾崎孝宏（鹿児島大学）

「ポストコロナの内陸アジア牧畜民社会に関する比較研究：モンゴルおよびキルギスの事例」

K. Toktomushev（University of Central Asia）

「Assessing the Impacts of Mining Activities in the Naryn Region of Kyrgyzstan: China's Role in Pre- and Post-COVID Dynamic」

廣田千恵子（北海道大学）「モンゴル国カザフ人社会における饗応の社会的意義—5世帯の事例調査を手がかりとして—」

T. Sternberg（University of Oxford）

「Wither pastoralism? The critical role of women herders in Mongolia」

A. Ahearn（University of Oxford）

「Governance Adaptations During the Covid-19 Pandemic and Livestock Epidemics in Mongolia」

児玉香菜子（千葉大学）総括

〔休憩15分〕（15:00-15:15）

- 第4部 研究発表 座長：都馬バイカル（桜美林大学）
- 発表3 サラントヤ（東京大学大学院・満期退学） （15:15-15:40）
「清末におけるモンゴル人の留日体験—パルタ（帕勒塔）王の場合—」
- 発表4 近衛飛鳥（千葉工業大学） （15:40-16:05）
「『フフ・トグ』新聞内の衛生・健康記事に関する考察」
- 座長：楊 海英（静岡大学）
- 発表5 ソロンガ（千葉大学大学院） （16:05-16:30）
「乳用ラクダの飼育形態と搾乳に関する考察—ラクダ合作社を経営する牧畜民の事例から」
- 発表6 山田洋平（東京外国語大学） （16:30-16:55）
「初学者向けモンゴル語学習語彙」

閉会の辞（副会長）（16:55-17:00）

* 駅西側にある会場へ移動して懇親会（17:15-19:00）

会場：西千葉イタリアンカフェ DEAR FROM

<https://dearfrom.jp/>